

立川談志に愛され、
永六輔に託された

2020年
日本民間放送連盟賞
最優秀賞

第58回
ギャラクシー賞
優秀賞

第47回
放送文化基金賞
優秀賞

第29回
FNSドキュメンタリー大賞
グランプリ

テレビで会えない芸人

出演——松元ヒロ

監督:四元良隆 牧祐樹 | プロデューサー:阿武野勝彦

撮影:鈴木哉雄 | 編集:牧祐樹 | 音響効果:久保田吉根 | 音楽:吉俣良

制作:前田俊広 山口修平 金子貴治 野元俊英 崎山雄二

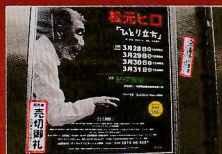
製作:鹿児島テレビ放送 | 配給:東風 | 2021年 | 81分 | 日本 | ドキュメンタリー | ©2021 鹿児島テレビ放送

tv-aenai-geinin.jp

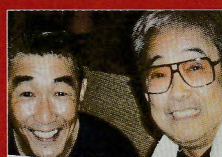
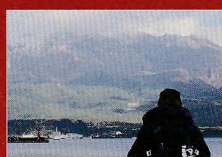
T2
NEXT

テレビで会えない芸人——その生き方と笑いの哲学から、いまの世の中を覗いてみる。モノ言えぬ社会の素顔が浮かび上がる。

芸人、松元ヒロ。かつて社会風刺コント集団「ザ・ニュースペーパー」で数々の番組に出演し人気を博した。しかし90年代末、彼はテレビを棄て、主戦場を舞台に移す。政治や社会問題をネタに笑いで一言モノ申す。ライブ会場は連日満席、チケットは入手困難。痛快な風刺に、会場がどっと笑いで包まれる。しかしそれだけではない。松元ヒロの芸には、不思議なやさしさがある——



松元が20年以上語り続ける『憲法くん』は、日本国憲法を人間に見立てた演目。井上ひさしが大絶賛し、永六輔は「ヒロくん、9条を頼む」と言い遺した。その芸は、あの立川談志をしてこう言わしめた。「最近のテレビはサラリーマン芸人ばかり。本当に言いたいことを言わない。松元ヒロは本当の芸人」。けれど、いや、だからこそ、いまテレビで彼の姿を見ることはない……。



そんな今日のメディア状況に強い危機感を募らせていたのは、松元の故郷鹿児島県のローカルテレビ局。2019年の春から松元ヒロの芸とその舞台裏にカメラが張りついた。監督は鹿児島テレビの四元良隆と牧祐樹。プロデュースを手掛けたのは『ヤクザと憲法』『さよならテレビ』などの衝撃作を世に送り出してきた東海テレビの阿武野勝彦。なぜ松元ヒロはテレビから去ったのか？なぜテレビは松元ヒロを手放したのか？そして本作はその答えを見つけられたのか？

tv-aenai-geinin.jp

fb.com/tv.aenai.geinin

@tv_aenai_geinin



永六輔は「芸人氣質」とは「職人氣質」同様、心意気あつての生き方から来る」と言っていました。父が松元ヒロさんに「憲法九条をよろしく」と言い遺した理由が、劇場版ではよりはっきりと分かります。——永麻理（フリーアナウンサー・エッセイスト）

この人のやって来たことは言論の自由と言うことだと思ふ。絶えて久しい……言論の自由。——鈴木敏夫（スタジオジブリ・プロデューサー）

こんなにも饒舌で話術に長けた人間味豊かなバントマイマーを私は知らない。——立川志の輔（落語家）

芸人もメディアも、権力の飼い犬でなく、弱者の番犬となれ。——望月衣塑子（東京新聞記者）

ヒロさんの生き様と覚悟を、メディアに携わる私たちが学ばねばならない。

映画「テレビで会えない芸人」自主上映会

開催日時 2025年5月31日（土）14:00受付(上映14:30～15:50)

会場 松山公民館ホール「松楽館」 入場料 1,000円

【主催】憲法をくらしにいかす市民の会（喜多方地区労内22-4015）